



日本共産党区議会議員

伊藤和彦です

自宅 足立区花畑6-20-1 電話3859-6952
足立区役所 電話3880-5111(内線4650~4654)
日本共産党区議団 直通3880-5770
http://www5.familie.ne.jp/~k-itou/index.html

打ち切り・廃止・負担増続々…

12/1~始まる第4回定例会で

11月1日に行われた議会運営委員会で、第四回定例会に提出される議案が明らかになり、耳を疑いました。国でも次々と国民負担増が計画されていますが、足立でも追い打ちをかけるように、打ち切り・廃止・負担増が続々と。足立の財政力は全国でも上位クラスで、ため込んだ基金は史上最高の10082億円。それなのになぜこんなサービス切り捨てをしなければならぬのでしょうか? 第四回定例会での各党の態度が問われます。

一方でためこんだ基金一〇八二億円

の貸付などが「受けられない業者などに貸し付ける生業資金のような制度の充実こそ必要な時に「廃止」を打ち出しました。

鹿沼野外レクリエーションセンターを廃止!

足立区は、那須・湯河原・伊豆高原の区民保養所を次々と廃止売却。山中湖・塩原林間学園も廃止しました。今度はついに鹿沼の野外レクリエーションセンターまで廃止するというのです。今でも夏休みは人気で予約も取れないのに。区は「子ども体験重視」方針に逆行しているのではないのでしょうか!

生業資金貸付制度を廃止!

もつとひどいのが福祉部が「生業資金貸付制度」の廃止。この制度は、自公民政になってから改悪し、住民税課税世帯が借りられなくなっておきながら、「制度の役割が終わった」として突如廃止しようというものです。

リサイクルセンターや都市農業公園の外部化

リサイクルセンターや都市農業公園の外部化。以前お知らせした学校開放事業の有料化も、12月に急いで行うとしています。しかも、当初は免除すると考えていた総合型スポーツクラブ加入サークルも有料化の対象に。もし強行されれば、マ、マさんバレーや野球・合唱など成人のサークルは現役PTAを除いてすべて有料になり、週1回利用で年間10万円前後の負担増になるサークルも!

学校開放の有料化!

以前お知らせした学校開放事業の有料化も、12月に急いで行うとしています。しかも、当初は免除すると考えていた総合型スポーツクラブ加入サークルも有料化の対象に。もし強行されれば、マ、マさんバレーや野球・合唱など成人のサークルは現役PTAを除いてすべて有料になり、週1回利用で年間10万円前後の負担増になるサークルも!

介護保険料の大幅値上げ

介護保険料も、12月に行われる地域保健推進協議会で大幅値上げの答申が出させようとしています。しかも異常なのは「値上げの中間報告」を出していないが、区民から意見を求めるパブリックコメントや公聴会は開催日時をぎりぎり決めて、答申する日にちだけは決めていることです。「暗闇・密室で議論して強行」といつ姿勢は許されません!



各党の議員がどのような態度か、次の議会で問われます



11月5~6日、第15回花畑住区センターまつりが開かれました。合唱を楽しむ地域のみなさん。



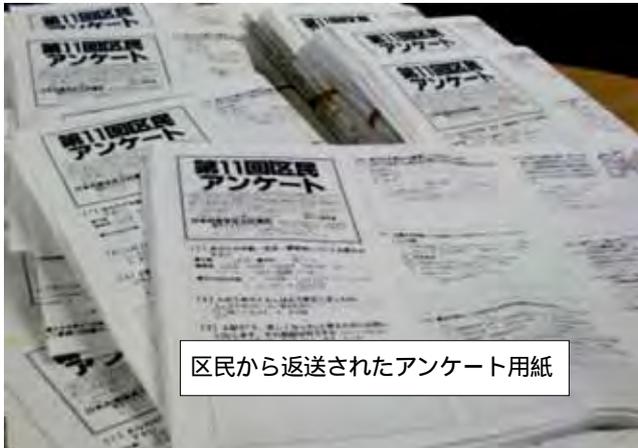
放射線量
いつしよに測ってみませんか?
とごまかすところを知らない「ミニホットスポット」騒動。「自分の家の周りを測りたい」という方、簡易測定器を購入しましたので、いつしよに測ってみませんか?
連絡は 伊藤和彦まで
(区役所控室)3880-5770

日本共産党区議団 住民アンケート

区政動かす力に

防災・放射能対策大きく前進

日時	主な区長への申し入れ内容
3月15日	相談窓口設置、区内被害の実態把握と修繕支援、放射能対策など
3月18日	避難所(綾瀬の武道館)の環境改善
3月24日	水道水の放射能汚染対策
3月24日	区内の住宅被害
4月8日	放射能の測定と情報開示など
4月22日	震度7、津波、放射能被害などを想定した防災計画見直し
6月7日	全学校、保育所、公園、各プールの線量測定など
7月29日	ホットスポット検出と除染など
8月24日	自然エネルギーなど
9月14日	ホットスポットの具体的な除染



夏に区議団が区内各世帯に配布した区民アンケートは、これまで2200通を超えて返送されました。東日本大震災後の大規模なアンケートとあって、震災や放射能への不安、行政への要望がぎっしりと書き込まれていました。そのアンケートは、共産党の手によって区政を動かす大きな威力を発揮しています。

震災後不安なことは、放射能汚染全般。共産党足立区議団が行ったアンケートには、7割の人がこう答えました。次いで多かったのも、水や野菜など食べ物の放射能汚染でした。区政で力を入れてほしい施策の第一位は震災・防災対策でした。

「命を守る区政を」 区長に申し入れ

日本共産党は、区民要望に応えようと、区議団の先頭に立って、大震災直後から全力をあげました。掲げたスローガンは、「いのちを守る区政を」。

放射能対策や震災対策に限っても、区長への申し入れは大震災直後の3月15日始まり、9月までに計10回(別表参照)に及びました。議会でも毎回取り上げ、アンケートに寄せられた区民の声をぶつけ、区を動かしました。

アンケートに寄せられた声から

放射能汚染	学校・公園の数値をはっきりと知りたい。(子どもが)楽しく遊んでいる時に被ばくしているのかと考えるとすごく落ち込む(35歳女性)
放射能汚染	子どもが生まれたばかりで、口に入る物がどのような影響が出るか心配。大丈夫と言われても信じられない(25歳男性)
原発	原発は発車しても止められない車のようで、実用に適さない施設だということがよくわかった(65歳女性)
原発	燃料棒の処理などを未来ある子どもたちに引き継がせたくない。原発のことを何も知らずに生きてきたことを後悔している(30歳女性)
防災	老老介護の世帯で震災が起こった時の対応が不安(69歳女性)
防災	避難所が狭く、近隣の人々は入りきれない(40歳男性)
防災	独居老人で車いす介助がないと外に出られず、避難できない(80歳男性)

例えば放射能汚染対策。当初区長は「全部測って何の意味があるのか」などと拒否していましたが、6月末からすべての小中学校や公園など752カ所の測定を開始。7月からはやはり拒否していた砂場の砂やプールの水の測定も行い、目安となる指標値(0.25シーベルト時)を独自に設定し、それを上回る場合は砂の入れ替えなども行うことになり、23区でも有数の放射能汚染対策に前進

に前進

その後ついに住民の通報のあった高濃度汚染への対応と、ミニホットスポット対策も講じられることになりました。

ほかに、耐震性に疑義がでてきた小学校など11校の耐震診断を再度行い、問

足立らたごえ祭典

第30回ひびかせよう！励まし励まされる歌声を

11月27日(日) 11:30~16:00

資料代500円

西新井小学校体育

主催：足立うたごえ祭典実行委員会

【連絡先】3854-3653
実行委員長 横川昭



7割が脱原発
アンケートでは原発そのものも問い、7割以上が廃止も含め「減らしていくべきだ」と回答。「増やすべきだ」は2%にとどまりました。自由記述欄には「大自然の前にはコントロールができません」「ひとたび事故が起これば経済以前に人が住めなくなる」など、原発の存在そのものへの不安を書く人が少なくありませんでした。

題がある場合は補強工事の追加や改築の前倒し。建築物耐震化助成の拡充、災害時の障害者や要援護者への支援改善などの前進もありました。

「防災無線が聞こえない」との声が多かったことから、被災県でも注目された地域ラジオ局「コミュニティFM」の導入も提案。区も検討を約束しました。